

丹後地域の弥生墳墓

- | | | |
|----------------|-------|---------|
| 1. 難波野遺跡の方形貼石墓 | 石尾 政信 | P 1～4 |
| 2. 日吉ヶ丘遺跡の貼石墓 | 加藤 晴彦 | P 5～10 |
| 3. 赤坂今井墳丘墓の調査 | 岡林 峰夫 | P 11～18 |
| 4. 丹後の弥生墳墓について | 石井 清司 | P 19～20 |

日時：平成18年6月24日（土）

於：京丹後市峰山町総合福祉センター コミュニティーホール

主催 京 都 府 教 育 委 員 会

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

後援 京 丹 後 市 教 育 委 員 会

難波野遺跡の方形貼石墓

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

専門調査員 石尾 政信

1. はじめに

京都府埋蔵文化財調査研究センターでは、国道178号線(通称「府中バイパス」)新設改良事業に先立ち、難波野(条里制)遺跡の発掘調査を実施した。

難波野(条里制)遺跡は、日本三景のひとつ「天橋立」の北側、成相山系と阿蘇海・宮津湾に挟まれた狭小な緩斜面上に位置している。調査地点は、宮津市字江尻の府中公園北側の田畑部である。調査の結果、弥生時代から中世にかけてのさまざまな遺構・遺物を確認した。

2. 調査の概要

平成17年度に調査した3トレンチで、下層から方形貼石墓が検出されたので、道路計画予定地の範囲内で再度トレンチを設定した。この調査で方形貼石墓を2基検出した。

方形貼石墓1

第3トレンチの北部で確認した。墳丘斜面に石を貼り付けた墳墓である。墳形は方形または長方形と考えられるが、南辺と東辺の一部、および南西隅を確認したにとどまり、大半が調査地外に広がる。このため、全体の規模は確認できていない。

墳丘の規模は、貼石の基底部で測ると、南辺が約16.2mを測る。貼石をもつ墳丘の周囲には周溝が巡らされており、周溝の幅は東辺で約4.5m、南辺で約5mを測る。周溝内には貼石が転落したものと考えられる石材が点在していた。また、墳丘の高さは現状で約0.6m残存しており、東辺のよく残る部分では周溝底部からは約1mを測る。

墳丘斜面の貼石は、竪穴式住居跡により壊された部分を除き、基底部からほぼ3段目付近まで遺存している。東辺・西辺では、貼石が3段目以上残る部分もある。貼石は長軸を縦(天地)方向にそろえるように設置している。南東隅には縦長の石が2石設置されていたと推定されるが、ひとつが抜け落ちていた。貼石に使用されている石は、いずれもやや磨滅した花崗岩で、調査地周辺から採取されたものと考えられる。貼石の傾斜角度は30°前後である。

このように墳丘下半の遺存状況は良好であるが、墳丘上の平坦部に設けられたと考えられる埋葬施設は、調査範囲内では検出されなかった。埋葬施設は、すでに削られたか、調査区外に存在するものと考えられる。墳丘部の断面観察から、沖積地に堆積した砂礫層の地盤の上に、砂質土を盛土して墳丘を造っていることが判明した。

方形貼石墓 2

第3トレンチの南東隅付近で、上から見て「L」字状に屈曲して並ぶ石列を確認した。その状況から、貼石墓1とは別の方形貼石墓の北西隅部と判断された。北辺の一部約6mと西辺の一部約1.5mを検出したことになる。周囲には周溝が巡らされていたと考えられる。墳丘の高さは貼石基底部から0.3~0.4mを測る。墳丘斜面の貼石は2ないし3段目まで遺存している。墳丘斜面の貼石に使用された石材は、方形貼石墓1に比べ扁平で磨滅が進んだものを使用している。海浜部から採取したものと考えられる。確認した範囲が限られているため、全体の規模など詳細は不明なことが多い。

3. 小 結

今回の調査で確認した方形貼石墓は、調査範囲内では、全体の規模や埋葬施設については確認できなかった。しかし、削平を免れた下半部をみると、2基の方形貼石墓が極めて良好な状況で遺存していた。これまで確認されている方形貼石墓の調査事例からみて、難波野遺跡の貼石墓の基底部付近の状況は、築造当初に近い姿であり、後世に破壊された場所は少ないと思われる。これだけ良好に遺存している事例は極めて少ない。しかも、方形貼石墓が2基連なって存在している点が最も大きな特色と指摘できる。

方形貼石墓の築造時期については、埋葬施設が検出されず、土器などの遺物がほとんどなく、詳細な検討はできていない。ただ、周溝内から出土した土器の細片や丹後地域での他の類例からみて、弥生時代中期後半(約2000年前)の所産と想定している。

方形貼石墓1は、全体の規模は不明であるが、南辺が長方形の短辺であった場合、日吉ヶ丘遺跡や寺岡遺跡の方形貼石墓に次ぐ規模を有することが想定される。調査範囲内で埋葬施設が検出されなかったことから、南辺が短辺の可能性が高い。

なお、丹後地域では、これまで6遺跡で11例の方形貼石墓が確認されており、なかでも、与謝野町(旧加悦町)日吉ヶ丘遺跡の方形貼石墓は国の史跡に指定されている。

方形貼石墓は、弥生時代中期中葉に出現すると言われている。最も古く位置付けられているのが、鳥根県江津市の波来浜^{ならはま}遺跡の事例で弥生時代中期中葉とされている。また、与

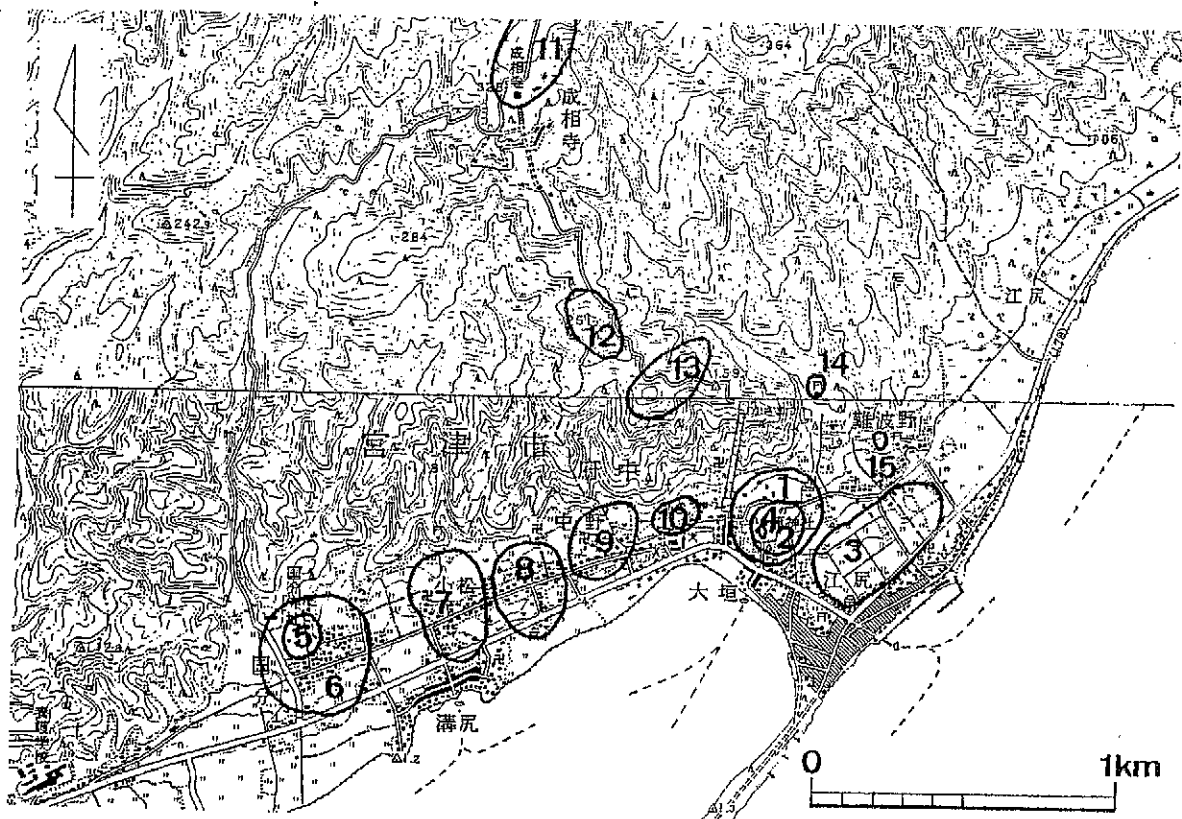
謝野町日吉ヶ丘遺跡はこれに次いで古い事例と考えられている。

その後、弥生時代中期後半(約2000年前)には、中国地方から京都府北部までの広範囲に分布するようになる。この時期が、方形貼石墓が最も盛んに造られた時期といえる。しかし、弥生時代後期(約1900年前)にはほぼ造られなくなる。全国的にみて、弥生時代中期は墓制において地域色が強まる時期と考えられており、方形貼石墓は備後(広島県)から石見・出雲(島根県)、因幡(鳥取県)、そして丹後(京都府北部)にまたがる広い地域で採用された独自の墓制として位置付けられている。

参考文献

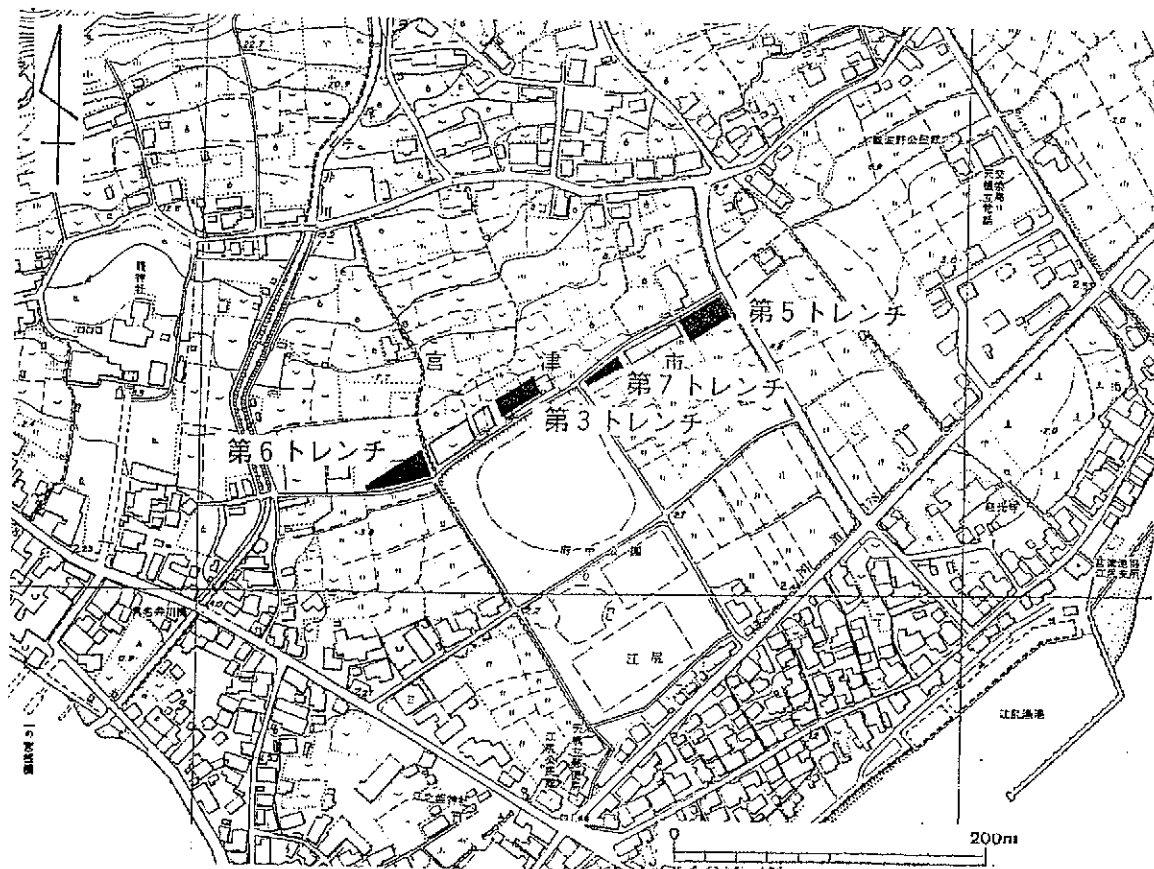
加藤晴彦ほか『日吉ヶ丘遺跡』 京都府加悦町教育委員会 2005

野島 永「京都府北部の貼り石方形墳丘墓について」(『京都府埋蔵文化財論集』第2集 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1991

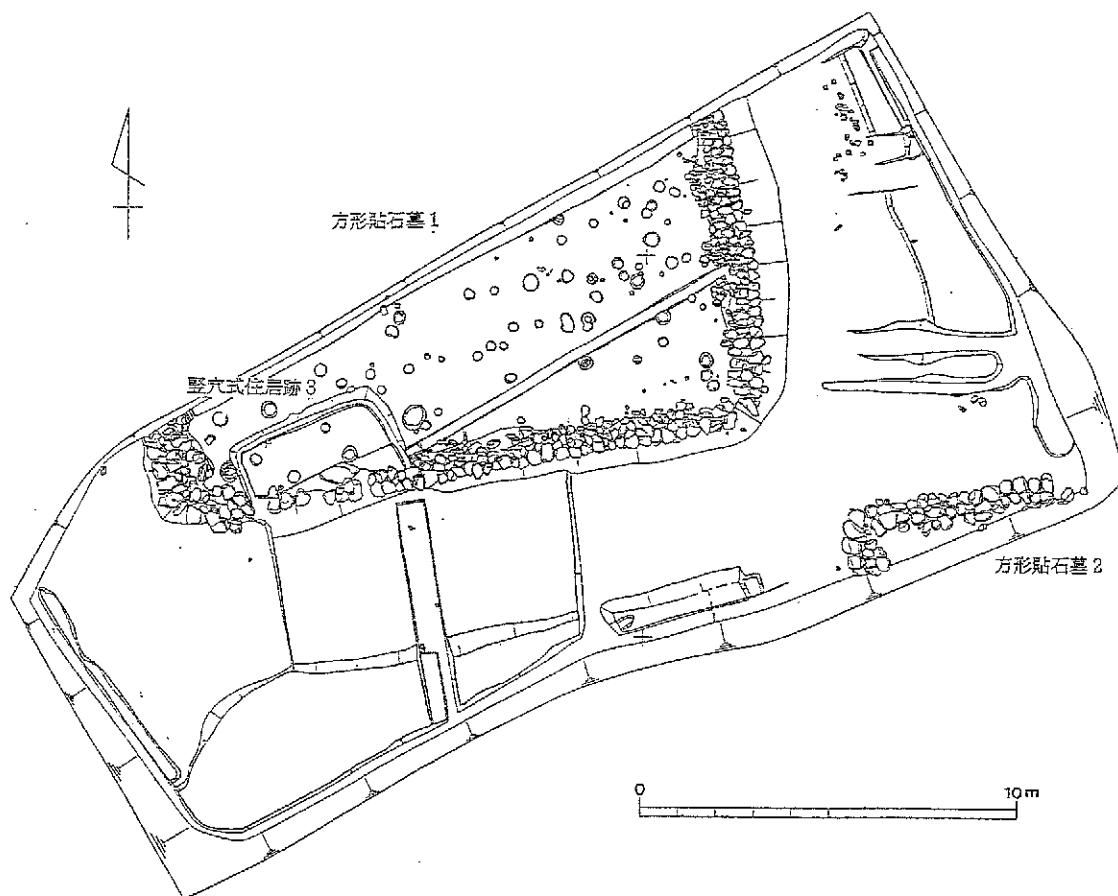


第1図 調査地および周辺遺跡分布図

- | | | | |
|-----------|-------------|--------------------|---------------|
| 1. 大垣遺跡 | 2. 一の宮遺跡 | 3. 難波野条里制遺跡(難波野遺跡) | 4. 籠神社(籠神社経塚) |
| 5. 丹後国分寺 | 6. 国分遺跡 | 7. 小松遺跡 | 8. 安国寺遺跡 |
| 9. 中野遺跡 | 10. 慈光寺遺跡 | 11. 成相寺旧境内 | 12. 阿弥陀ヶ峰城跡 |
| 13. 今熊野城跡 | 14. 真名井神社経塚 | 15. 難波野千鉢地蔵遺跡 | |



第2図 調査トレンチ配置図



第3図 方形貼石墓1・2平面図

日吉ヶ丘遺跡の貼石墓^{はり いし ぼ}

与謝野町教育委員会

主事 加藤 晴彦

丹後の弥生時代中期の墳墓の変遷

- 日吉ヶ丘 1 期 (未確認) ※ プリミティブな形態の貼石墓の存在を想起
- 日吉ヶ丘 2 期 日吉ヶ丘 SZ01 (方形貼石墓)・大山 1・2 号墓 (北近畿的台状墓)
- 日吉ヶ丘 3 期 カジヤ 1~3 号墓 (方形周溝墓)・奈具墳墓群 (方形周溝墓・3~5 期に継続)・難波野墓 (方形貼石墓)
- 日吉ヶ丘 4 期 寺岡 SX56 (方形貼石墓)・千原 16・27 グリッド墓 (方形貼石墓)・小池 12・13 号墓 (方形貼石墓)
- 日吉ヶ丘 5 期 志高遺跡 1~3 号墓 (方形貼石墓)

日吉ヶ丘遺跡の貼石墓 SZ01 の出現背景

方形貼石墓という墓形態は、弥生時代中期中葉~後葉の石見・出雲~丹後の首長墓に共通したものであり、現状で最古の事例は日吉ヶ丘 1 期併行に遡るとされる石見の波来浜遺跡である。その伝播は石見・出雲から丹後へと及んだ可能性が高い。この背景には墓形態を共有する首長間あるいは社会間の交流が想定される。

その交流を示すものは何か。この時期の山陰~丹後にかけて多く出土する鉄器にその可能性をみるが、鉄器を豊富に保有するという現象のみで具体的な様相は見えてこないが、当時、中国大陆・朝鮮半島に求めるしかなかった鉄器をめぐり、その入手において山陰地域との交流は必然であると思われる。奈具岡遺跡の脱炭鋳鉄鋼や鑄造鉄斧片などはその事例である。一方、土器様相をみると、日吉ヶ丘遺跡の土器相は播磨との類似性が強く、出雲などの様相は見られない。そこには土器様相には現れない基層的な交流も想定できるが、具体相は示せない。この場合、墓形態と土器様相は別の次元ということになる。

日吉ヶ丘遺跡 SZ01 のように首長墓の大型化・単独埋葬化を促した背景はどこにあるのか。やはり、豊富な鉄器が重要なポイントと思われる。土器様相・サヌカイトの流通などをもとに復元される加古川-由良川-大江山連峰越え-丹後という基盤ラインを通じた、播磨などの丹後以南の地域での鉄器への需要が、それを供給する丹後の首長の政治的成長を助長したと考える。

それは、丹後が稲作などの穀物生産を基盤として河川流域ごとに完結性の強い地域社会を形成し成長を遂げ、さらにその上に、半島をいう地形・潟湖・西世界(山陰・韓半島)や東世界(若狭・北陸)や南世界(丹波・播磨)との結節点という日本海沿岸地域の中でも交易に優れた地理的特質を基盤として、そこに丹後が持つ豊富な鉄器への需要と供給という要因がプラスされたことで、丹後に物流の基点としての役割を担わせ、それを支配した首長がより大きな政治権力を形成させたという仮説である。つまり、鉄器を丹後地域内だけで保有するのではなく、広範な耕地をもつ大需要地域へ流通させることで、物々交換の交渉上、優位な立場にあり、それが大型墳墓と単独埋葬という形で首長の政治的成長が表れていると推定され、優れて手工業生産と交易型社会であった可能性があり、それが古代丹後の生命線であった。と推測している。

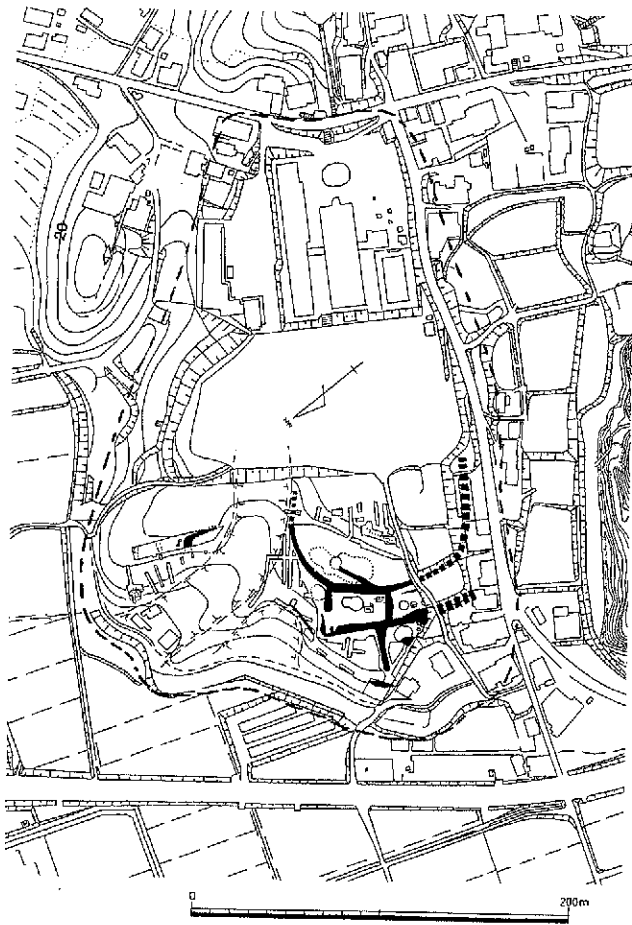
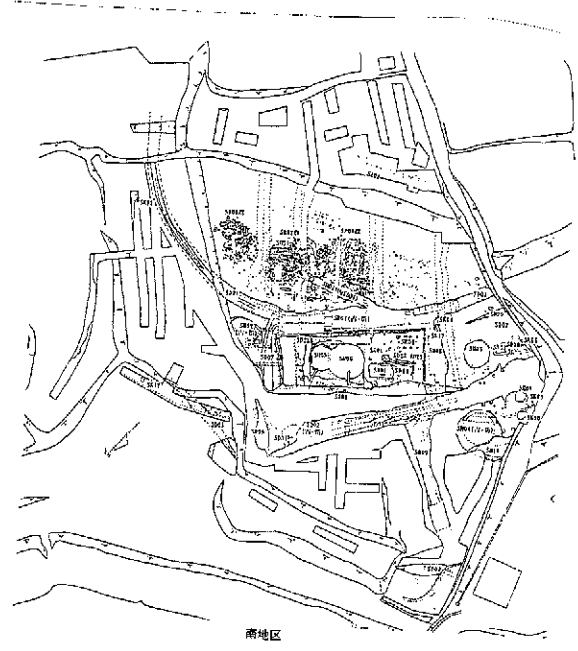


図4 日吉ヶ丘遺跡全体図



南地区

①

②

12. 日吉ヶ丘遺跡

所在地：京都府与謝郡加悦町明石小字馬場

時期：中期中葉新石器

墳墓形態（数）：方形粘土器（1基）・方形筒溝墓（1基）

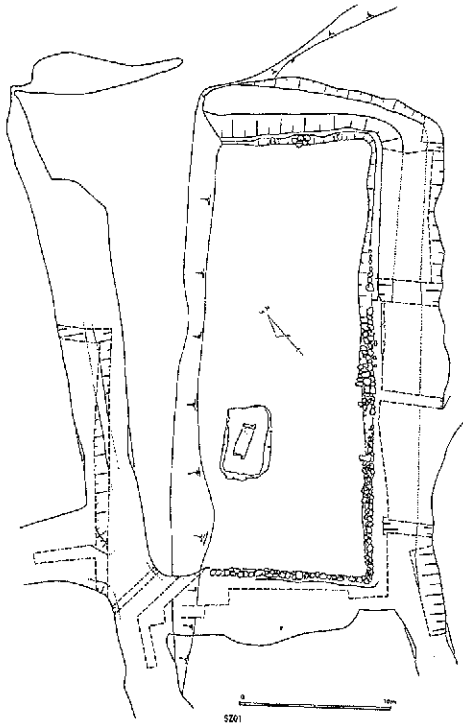
遺構名：S201・S202

規模：[S201]32.0×20.0m/[S202]21.0以上×18.5m

埋蔵施設（数）：[S201]木棺SX01（1基）/[S202]木棺SX02（1基）のほかSK06も可能性あり

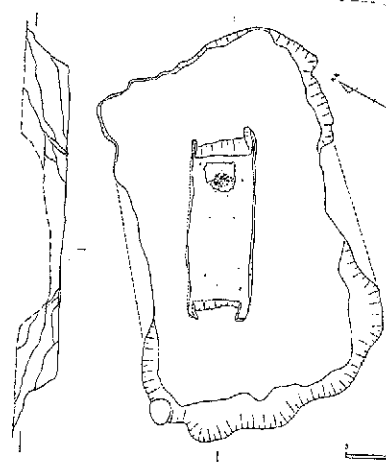
副葬品等：[SX01棺内]碧玉製管玉677点以上

参考文献：加藤晴彦ほか2005『日吉ヶ丘遺跡』加悦町文化財調査報告第33集 加悦町教育委員会（加藤晴彦）



S201

③



S202

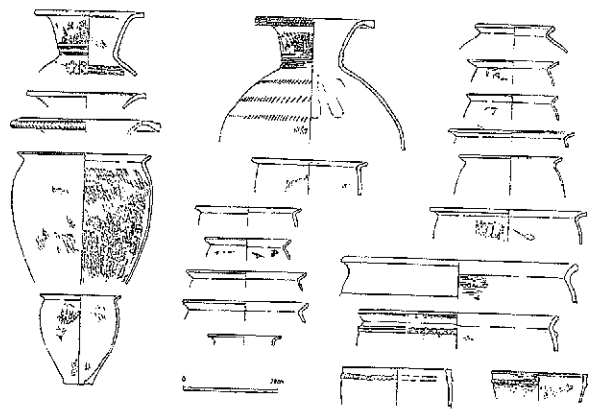
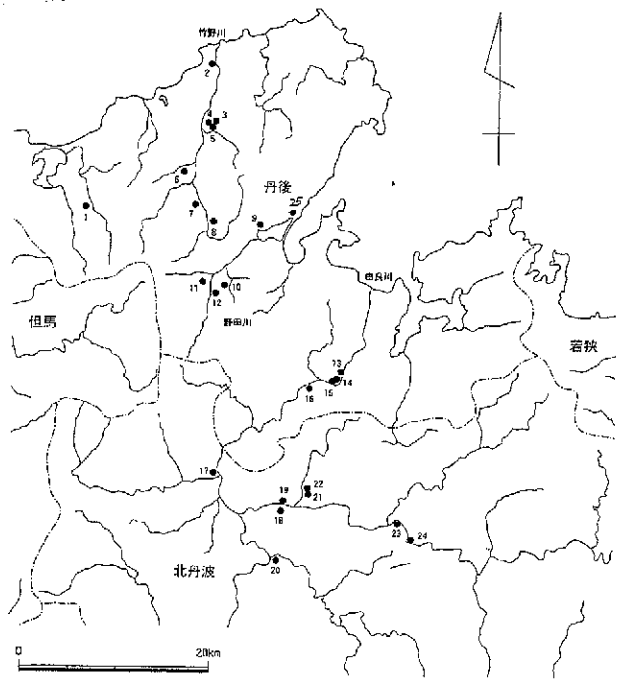


図5 (S202) 地下層出土土器

④

方形貼石墓一覽 (弥生時代中期後半～後期前半)

No.	遺跡名	所在地	時期	墳丘規模	埋葬施設	副葬品等
1	日吉ヶ丘遺跡方形貼石墓	京都府与謝野町	中期中葉	33m×17～22m	木棺直葬1基	管玉約677以上
2	奈具岡遺跡1号方形貼石墓	同 京丹後市	中期後半?	27m以上×6.2m以上	不明	不明
3	同 2号方形貼石墓	同	中期後半?	6.2m以上×2m以上	不明	不明
4	千原遺跡16グリッド	京都府与謝野町	不明	不明	不明	不明
5	同 27グリッド	同	中期後半?	不明	不明	不明
6	難波野遺跡 方形貼石墓 1	同 宮津市	中期後半?	不明	不明	不明
7	同 方形貼石墓2	同	中期後半?	不明	不明	不明
8	小池遺跡12号墓	同 京丹後市	不明	13号墓と同大?	不明	不明
9	同 13号方形貼石墓	同	中期末	6.6m×3.5m	木棺直葬2基	なし
10	志高遺跡1号方形貼石墓	同 舞鶴市	中期後半	7.2m×9.0m以上	木棺直葬ほか4基	なし
11	同 2号方形貼石墓	同	中期後半	15m×?	不明	不明
12	同 3号方形貼石墓	同	中期後半	6.5m×7.7m以上	木棺直葬?3基	なし
13	寺岡遺跡SX56方形貼石墓	京都府与謝野町	中期末	32.5m×17.6m	木棺直葬3基	なし
14	布勢鶴指奥方形貼石墓	鳥取県鳥取市	後期中葉	17.8m×10.2m	木棺直葬2基	なし・棺内に水銀朱
15	布勢鶴指奥2号墓	同	後期中葉	5m以上	木棺直葬2基	なし
16	桂見墓	同	後期中葉	12m×11m	木棺直葬6基以上	ガラス勾玉・碧玉製管玉
17	三嶋谷墓	鳥取県岩美町	後期初頭	23m×17m	不明	不明
18	洞ノ原2号墓	鳥取県淀江町	後期初頭	8.8m×7.1m	1基以上	不明
19	同 6号墓	同	後期前葉	1.9m×1.6m	不明	不明
20	同 14号墓	同	不明	1.4m×1.3m	不明	不明
21	同 15号墓	同	不明	1.6m×?	不明	不明
22	波来浜A2号墓	鳥根県江津市	中期後葉	4.0m×5.0m	土壙墓3基	なし
23	同 A3号墓	同	不明	2.2m×3.5m	不明	不明
24～26	同 A1・A4・A5号墓	同	不明	いずれも2.2m以下	A4墓は土壙墓、他は不明	不明
27～33	同 B1～B7号墓	同	後期前葉以降	いずれも6m以下	あり	なし
34	中野美保遺跡方形貼石墓	同 出雲市	中期中葉	5.7m×4.6m	不明	不明
35	友田遺跡方形貼石墓	同 松江市	後期前葉	10.5m×5m以上	不明	不明
36	花園1号墓	広島県三次市	中期中葉～後期後葉	31.3m×19.8m	箱式石棺・土壙 215基	2号箱式石棺ガラス管玉13
37	同2号墓	同	後期中葉	14.1m×9m	箱式石棺4基・土壙17	なし
38	四拾貫小原遺跡	同	中期後葉	8m×5m	不明	不明
39	門の山遺跡	岡山県	—	—	—	—
40	粟鹿遺跡方形貼石墓	兵庫県山東町	中期末～後期初頭	14m×10m以上	不明	不明



丹後・北丹波地域の弥生時代中期墳墓分布図

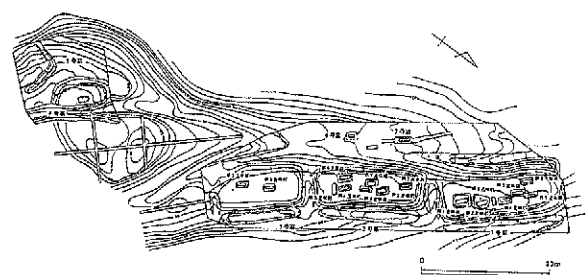
- 1. 龜谷墳墓群 2. 大山墳墓群 3. 奈良墳墓群 4. 奈良岡遺跡 5. 奈良岡北古墳群 6. カジヤ遺跡 7. 小池墳墓群 8. 岩城墳墓群 9. 千原遺跡 10. 寺岡遺跡 11. 下畑遺跡 12. 日寺ヶ丘遺跡 13. 花ノ木遺跡(赤高遺跡花ノ木地区) 14. 志高遺跡 舟戸北地区 15. 志高遺跡 カキ安地区 16. 桑岡上遺跡 17. 石平遺跡 18. 奥・御堂寺遺跡 19. 小貝遺跡 20. 谷遺跡 21. 三宅遺跡 22. 森熊遺跡 23. 菅野西遺跡 24. 味方遺跡

⑤

3. 奈良墳墓群

所在地：京都府京丹後市弥栄町溝谷字奈良岡
 時期：中期中葉～中期末葉
 墳墓形態(数)：方形周溝墓(5基)・木棺墓(2基)
 遊標名：1号墓・2号墓・3号墓・4号墓・5号墓・6号墓・7号墓
 規模：[1号墓]21.2×10.7m/[2号墓]20×9.7m/[3号墓]15.8×9.3m/[4号墓]9.5×5+am/[5号墓]6×5+am
 埋葬施設(数)：[1号墓]木棺(6基)・土葬(1基)/[2号墓]木棺(6基)・土葬(1基)/[3号墓]木棺(2基)/[4号墓]土葬(1基)/[6号墓]木棺(1基)/[7号墓]木棺(1基)
 副葬品等：[1号墓第2主体部棺外]弥生土器2点/[1号墓第4主体部棺外]弥生土器2点/[2号墓第3主体部棺外]弥生土器1点/[2号墓第6主体部棺外]弥生土器1点/[6号墓棺外]石楯1点・弥生土器3点
 参考文献：河野一隆1995『奈良墳墓群・奈良古墳群』『京都府遺跡調査報告』第65冊(附)京都府遺産文化財調査研究センター
 備考：6号墓墓壇上面に標石あり。

(石井智大)

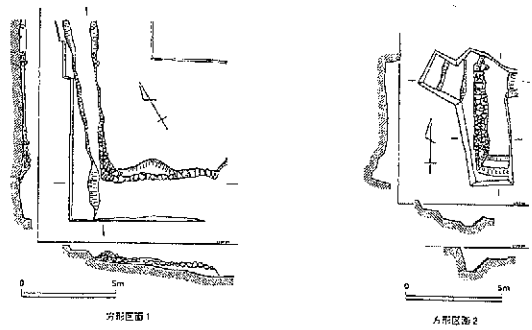


⑥

4. 奈良岡遺跡

所在地：京都府京丹後市弥栄町溝谷字奈良岡
 時期：中期末葉？
 墳墓形態(数)：方形貼石墓(2基)
 遊標名：方形区画1・方形区画2
 規模：[方形区画1]26.8+α×6.1+am/[方形区画2]5.4+α×1.6+am
 埋葬施設(数)：不明
 副葬品等：不明
 参考文献：奥村浩一郎・林日佐子1986『奈良岡遺跡第3次発掘調査報告書』弥栄町文化財調査報告第4集 弥栄町教育委員会
 備考：報告書掲載土器のうち、27・40～43の5点だけが周溝出土器であることを資料調査で確認した。さらに、丘陵西縁には弥生時代中期末葉の竪穴住居址があると推定され、それらに伴う土器が多いことがわかった。周溝出土土器についても住居址関係のものが混入した可能性があり、微密に器に共存する土器とはいえない。また、42・43は丹後では例のない河内産の土器であり、弥生時代後期中頃のものとと思われる。この2点が方形貼石墓への供献土器の可能性があるが、現段階ではその扱いは保留したい。なお、42・43は方形区画1の南溝から出土している。
 また、方形区画の眺望は西側の平野部を意図したものではなく、北東側にある奈良岡遺跡を意図したものである可能性が高い。なお、報文によると、方形区画2が方形区画1に先行するとある。

(加藤晴彦)

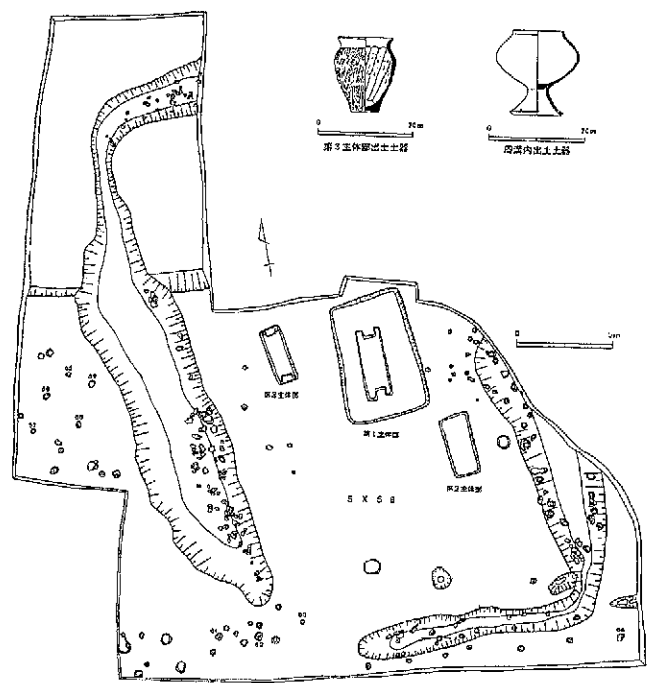


⑦

10. 寺岡遺跡

所在地：京都府与謝郡野田川町石川小字寺岡
 時期：中期末葉
 墳墓形態(数)：方形貼石墓(1基)
 遊標名：SX56
 規模：31×17m
 埋葬施設(数)：木棺(2基)・土葬(1基)
 副葬品等：[第3主体部棺外]弥生土器1点
 参考文献：奥村浩一郎編1988『寺岡遺跡』京都府野田川町文化財調査報告第2集 野田川町教育委員会

(石井智大)



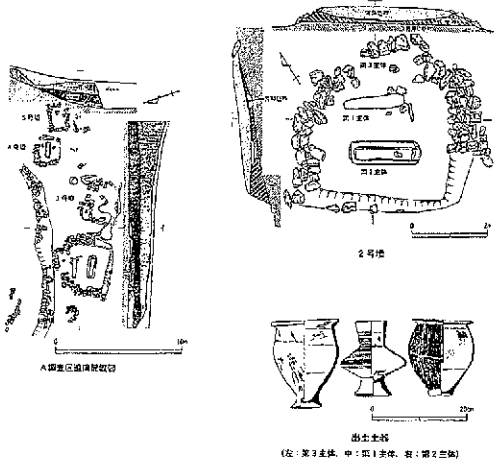
⑧

6. 波来浜遺跡 A調査区

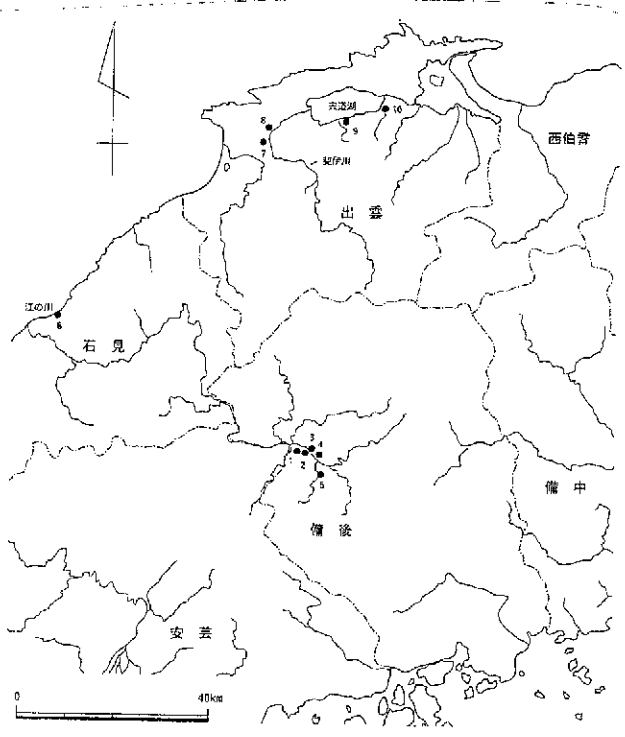
所在地：高根県江津市大字後地
時期：中期中葉
墳墓形態（数）：貼石墳丘墓（1基）
遺構名：2号墳
規模：5×4m
埋葬施設（数）：土坑（2基）

副葬品等：[土坑直上・土坑付近] 弥生土器
参考文献：門脇後彦1973『波来浜遺跡発掘調査報告書』 島根県江津市
備考：付近に1・3～5号墳（貼石墳丘墓）が隣接するが、土器は出土していない。

(山根 航)



出土土器
(左：第3土器、中：第1土器、右：第2土器)



山陰・山陽地域の弥生時代墳丘墓分布図

- 1. 花園遺跡 2. 赤松池西遺跡 3. 四谷良小塚遺跡 4. 神山遺跡 5. 敷山墳墓群 6. 波来浜遺跡
- 7. 中野美保遺跡 8. 青木遺跡 9. 三松塚墓群 10. 灰田遺跡

⑨

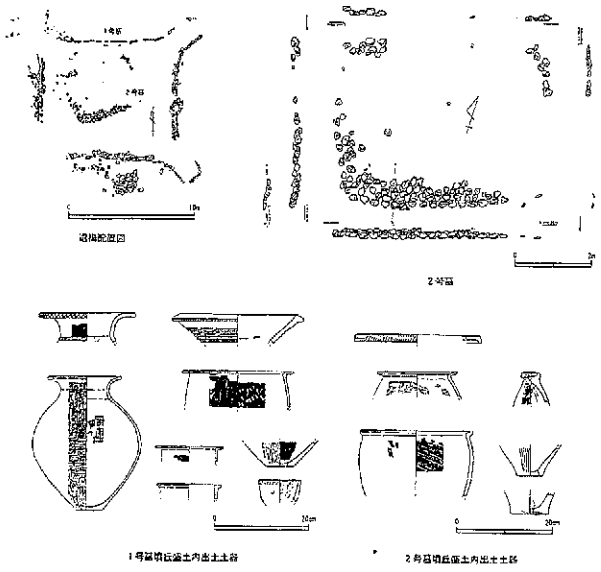
7. 中野美保遺跡

所在地：高根県出雲市中野町
時期：中期中葉（報Ⅱ-1～2様式）
墳墓形態（数）：貼石墳丘墓（1基）
遺構名：2号墓
規模：5.5×4.5m
埋葬施設（数）：未検出

副葬品等：[1号墓盛土内・2号墓盛土内] 弥生土器
参考文献：仁木聡・山根隆・渡辺正巳・古屋紋・粟村哲男2004『中野美保遺跡』一般国道9号山雲バイパス建設予定地内遺産文化財発掘調査報告書4 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

備考：上部に後期後半の1号墓（四隅突出型墳丘墓）が露出される。

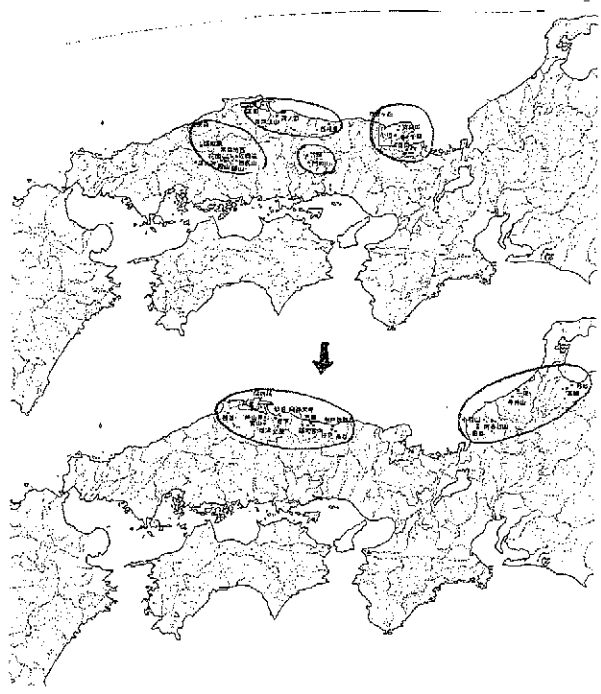
(山根 航)



1号墳墳丘盛土内出土土器

2号墳墳丘盛土内出土土器

⑪



第5図 方形貼石墓と四隅突出墓の分布（中期後半～後期前葉）（上段）
第6図 方形貼石墓と四隅突出墓の分布（後期中葉～終末期）（下段）

(山根 航)

⑫

赤坂今井墳丘墓の調査

京丹後市教育委員会

主事 岡林 峰夫

1 はじめに

2 調査の概要 (H10~15年度調査)

墳丘上の埋葬施設の調査－巨大な墓壇、墓壇上祭祀（円礫・破砕供献土器・柱穴の存在）、第4埋葬の豪華な副葬品。

墳丘裾の埋葬施設の調査－19基の埋葬施設。墳頂部とあわせ計25基。

墳丘裾範囲確認調査－墳丘部と裾の平坦部で構成。

3 理化学的分析

ガラス管玉－青色顔料「漢青」の混入、中国産か？

辰砂（朱）－水銀朱、同位体比計測値では三重県丹生鉾山産に近い。

4 まとめ

	No	墓壇 (単位:m)			棺 (単位:m)				出土遺物			
		形態	長軸	短軸	深さ	形態	長軸	短軸	深さ	墓壇上	墓壇内	棺内
墳頂部	1	2段墓壇	14	10.5	1.8以上	舟底状木棺?	7	2	不明	円礫、土器 辰砂	土器	不明
	2	2段墓壇	4.5	2.4	1	舟底状木棺	3.4	0.9	0.36	なし		ヤリガンナ1
	3	2段墓壇	3.5	2.3	1.2	箱型木棺	1.8	0.5	0.4	なし	土器	ヤリガンナ1
	4	2段墓壇	7	4.2	約2	舟底状木棺	4.4	1.3	0.5	円礫、土器	土器(破砕)	鉄剣1、ヤリガンナ1 有機物
	5		2.8	1.85								
	6		3	1.8								
東側	7	素掘墓壇	2.3	1	1.1	箱型木棺				土器片		短刀1、鉄鏃1、ヤリガンナ1
	8	素掘墓壇	2	1	1.1	舟底状木棺						ヤリガンナ1
	9	素掘墓壇	1.1	0.52	0.35	土壇墓						
	10	素掘墓壇	2.1	0.9	0.45	箱型木棺				土器片		赤色顔料
北側	11	2段墓壇	2.6	1.8	0.6	箱型木棺						ヤリガンナ1
	12	2段墓壇	2.4	1.4	0.45	箱型木棺					土器(破砕)	
	13	素掘墓壇	1.75	0.63	0.4	土壇墓						
	14		1.1	0.6								
	15		2.6	1.1								
	16		1.1	0.5								
	17		1.5	1.8								
	18		1	0.5								
西側	19	2段墓壇	0.9	0.8		土器棺					土器片	ヤリガンナ1
	20		2以上	1.1								
	24											
	21		2.8以上	2								
南側	23		0.9以上	0.9								
	25	素掘墓壇	2.3	1.3	0.9	箱型木棺				土器片		

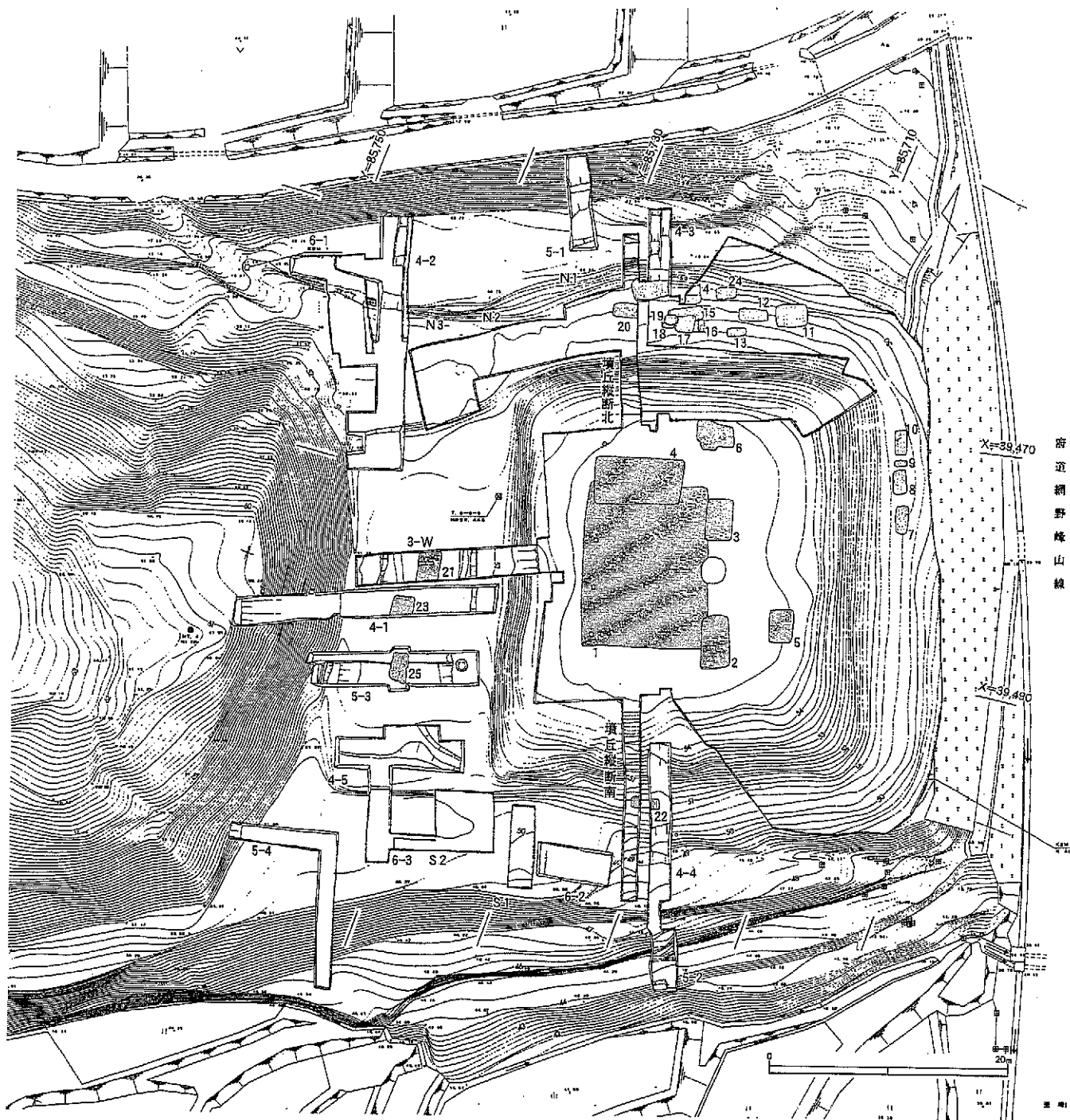
赤坂今井墳丘墓埋葬施設一覧表



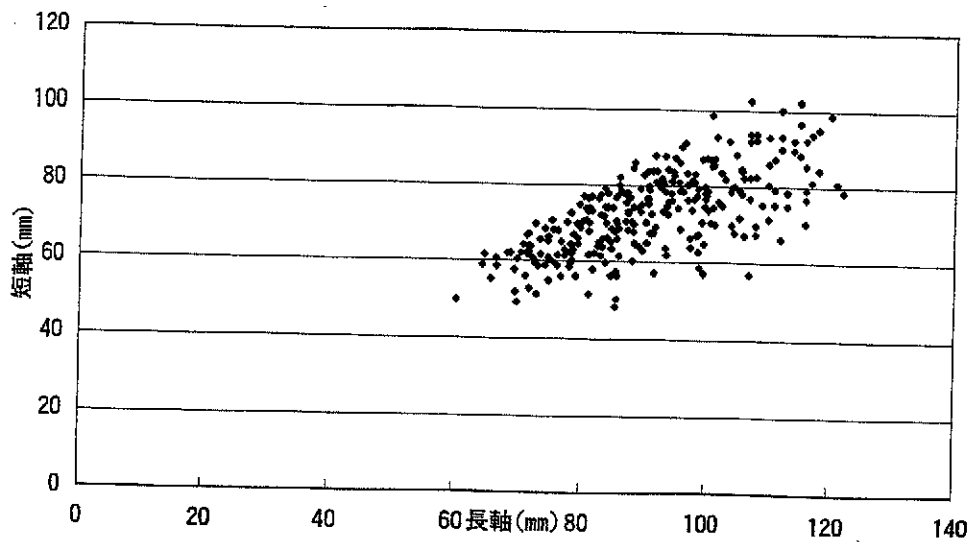
赤坂今井墳丘墓及び周辺主要遺跡分布図(弥生・古墳時代)

(1/50,000 細かい網は集落遺跡・粗い網は古墳群もしくは墳墓群)

- | | | | |
|--------------|------------|------------|--------------|
| 1: 赤坂今井墳丘墓 | 2: 浅後谷南墳墓 | 3: 金谷1号墓 | 4: 左坂古墳群・墳墓群 |
| 5: 帯城古墳群・墳墓群 | 6: 三坂神社墳墓群 | 7: 大田古墳群 | 8: 大田南古墳群 |
| 9: 湧田山1号墳 | 10: カジヤ古墳 | 11: 浅後谷南遺跡 | 12: 古殿遺跡 |
| 13: 扇谷遺跡 | 14: 途中ヶ丘遺跡 | 15: 中岡遺跡 | 16: 大宮売神社遺跡 |
| 17: 新町遺跡 | | | |



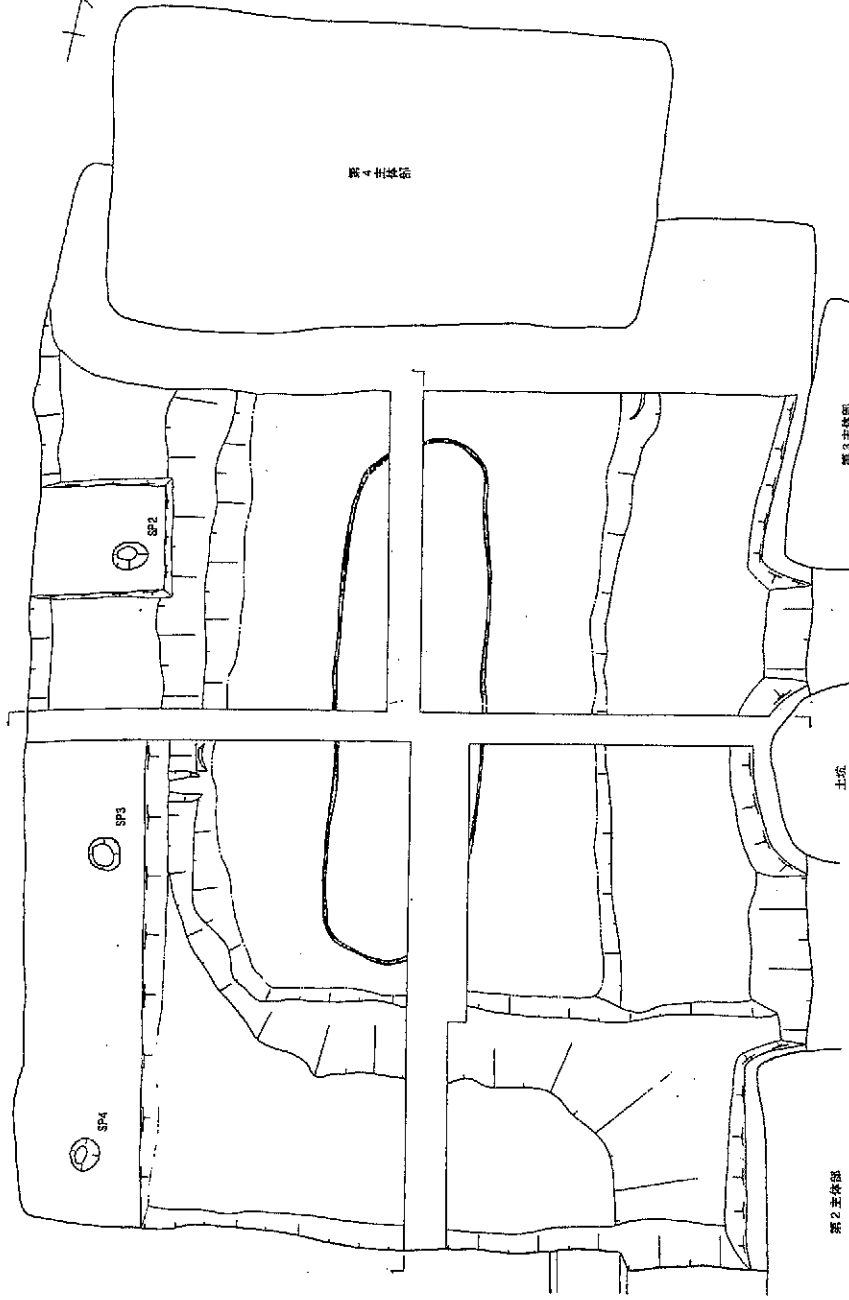
トレンチ位置図および検出遺構配置図
 (トレンチ内数字は埋葬施設番号)



第1埋葬円礫法量分布図

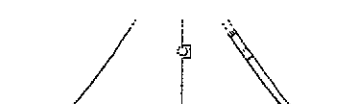
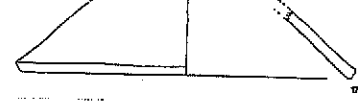
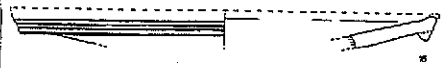
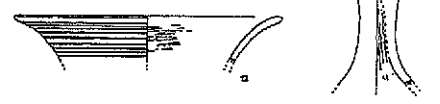
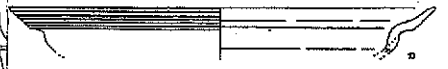
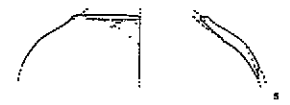
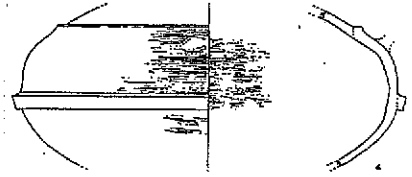
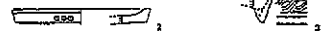
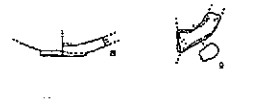
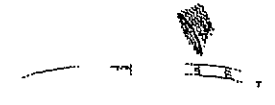
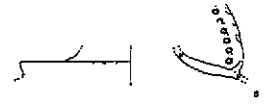
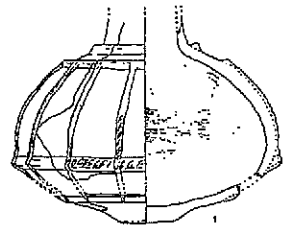


第1埋葬上陥没痕および遺物検出状況図

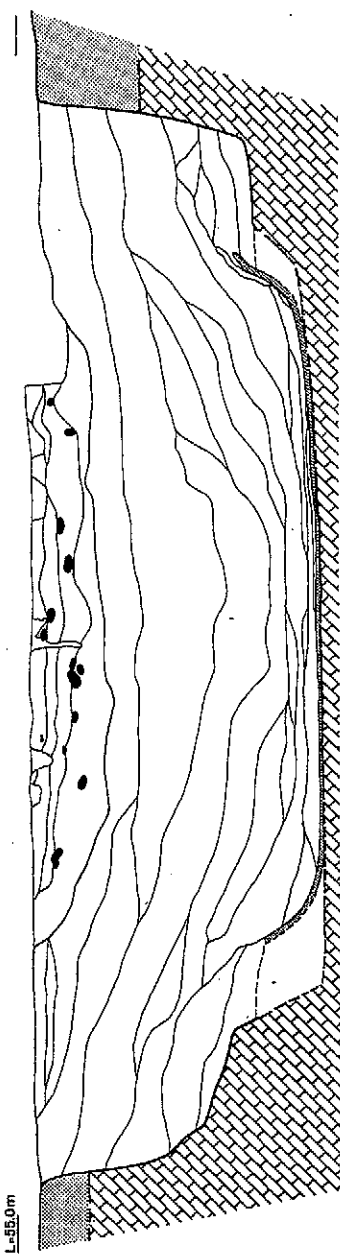
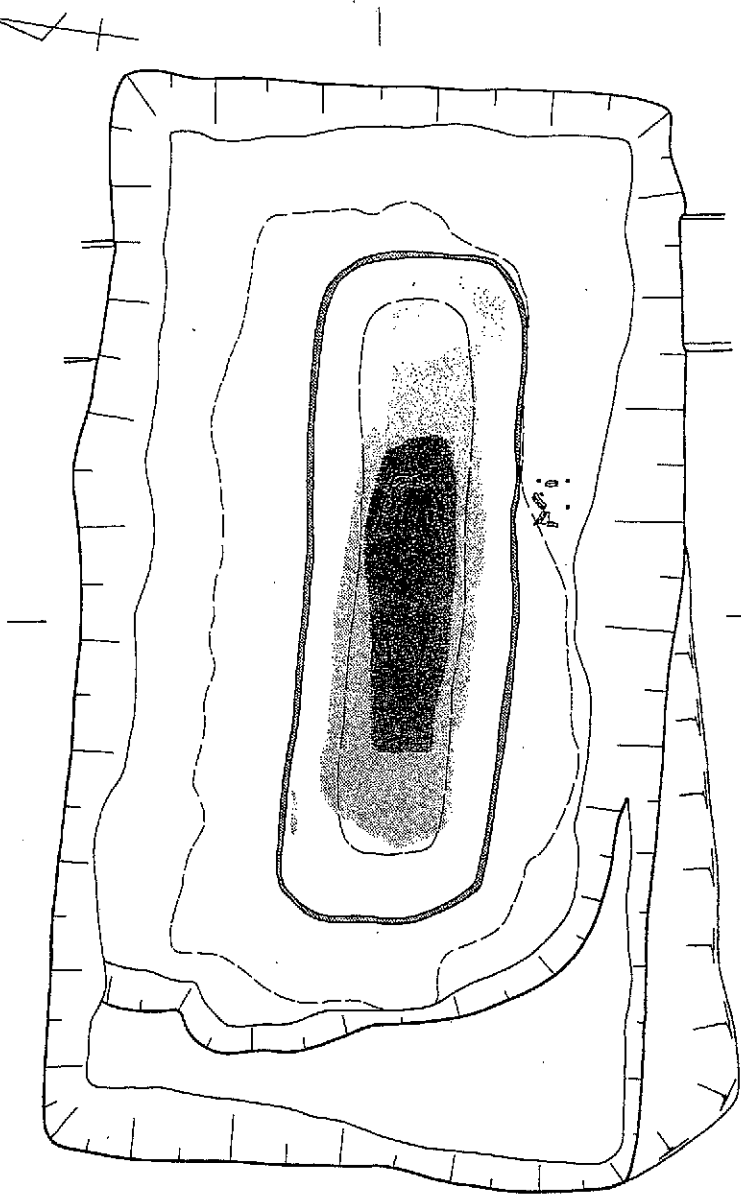


第1埋葬平面図

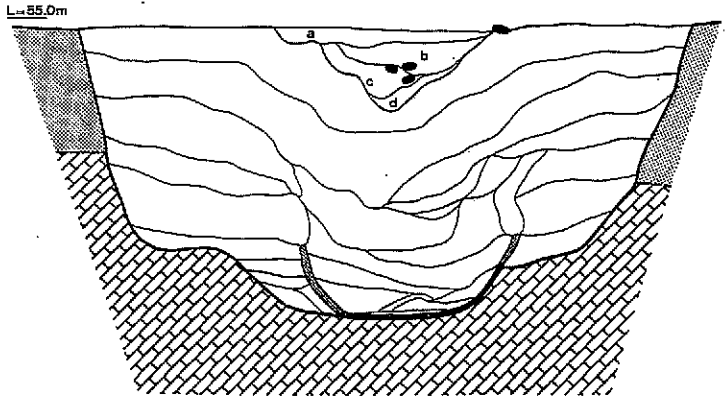
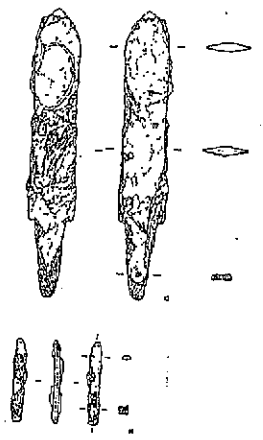
0 20cm



土器実測図

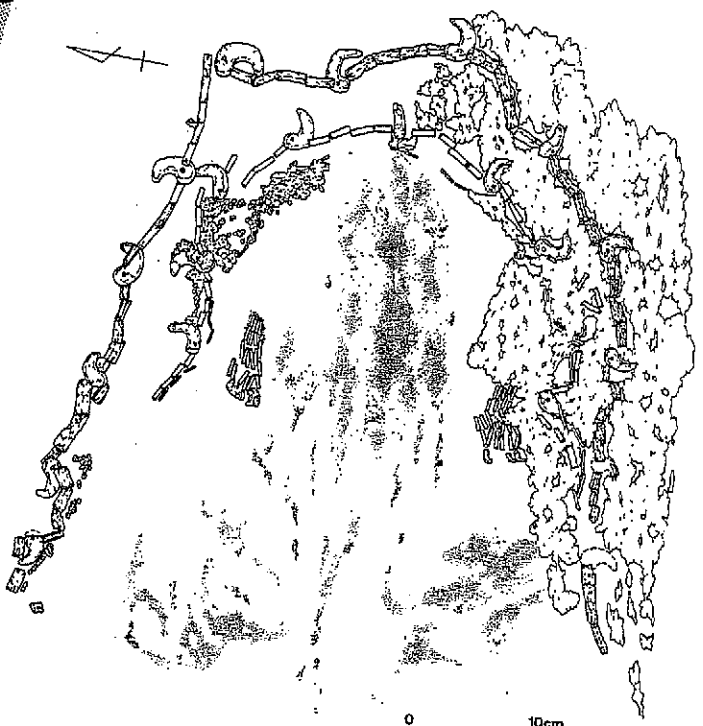


出土遺物実測図

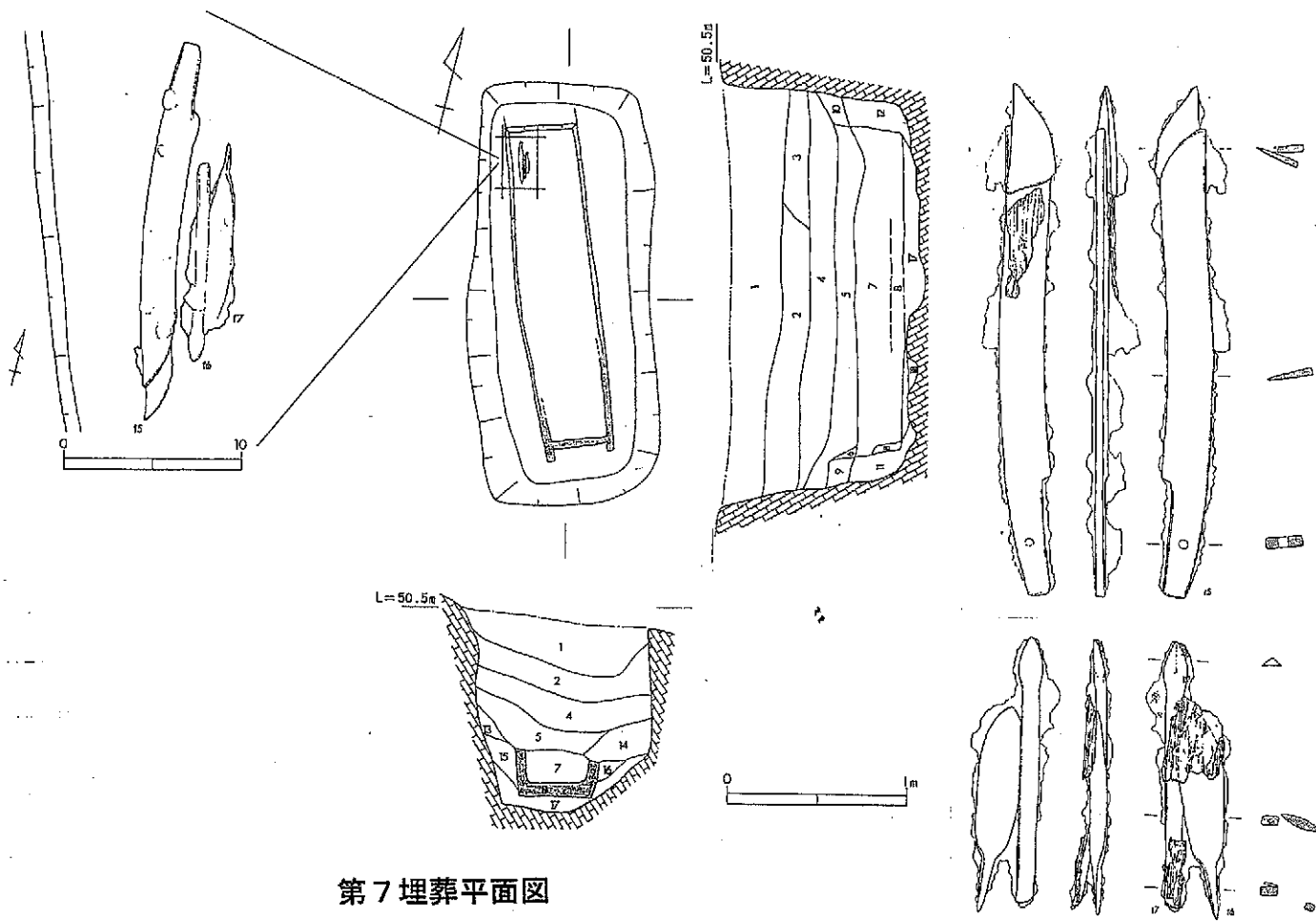


0 2m

第4埋葬木棺検出状況実測図

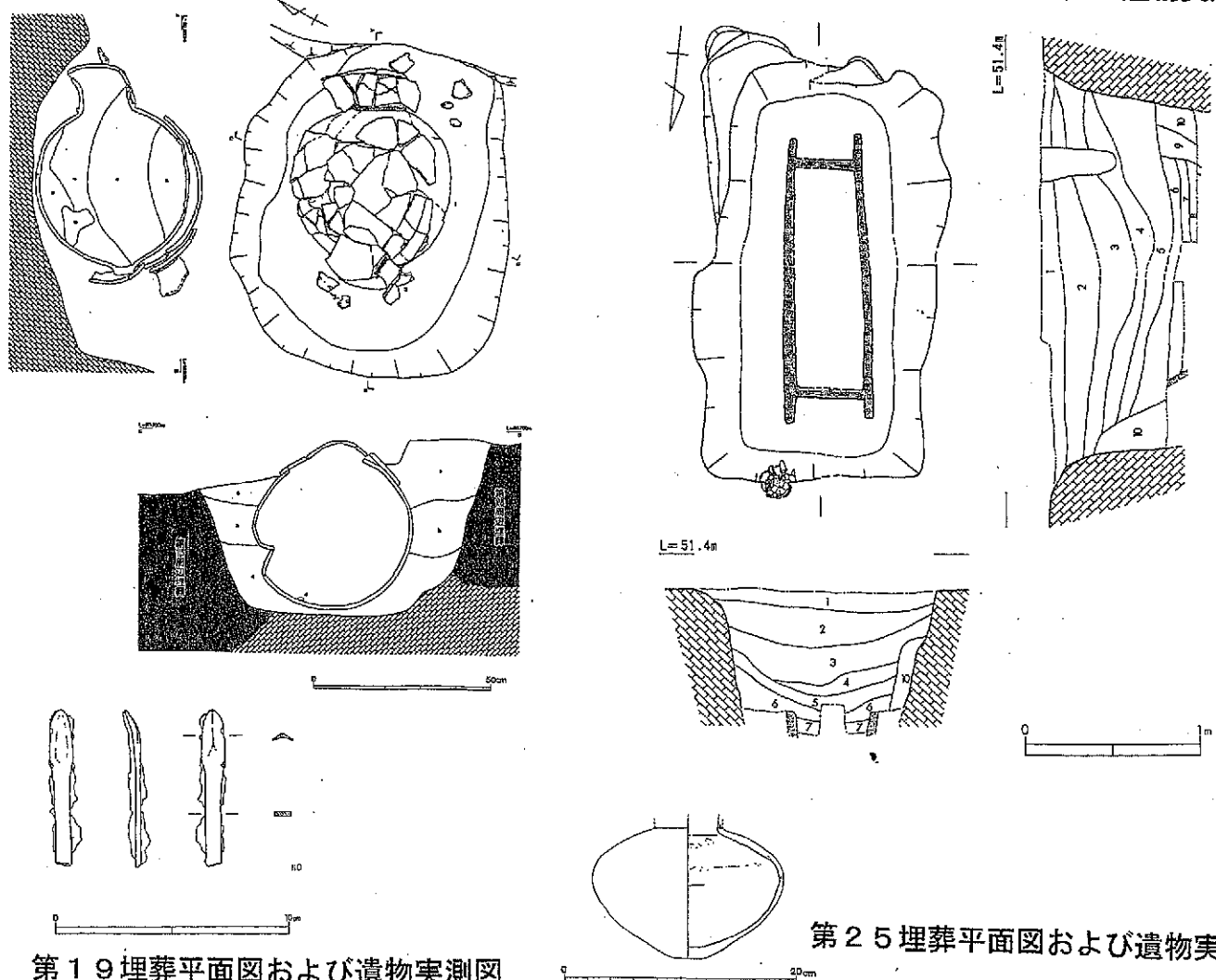


第4埋葬棺内玉類検出状況図



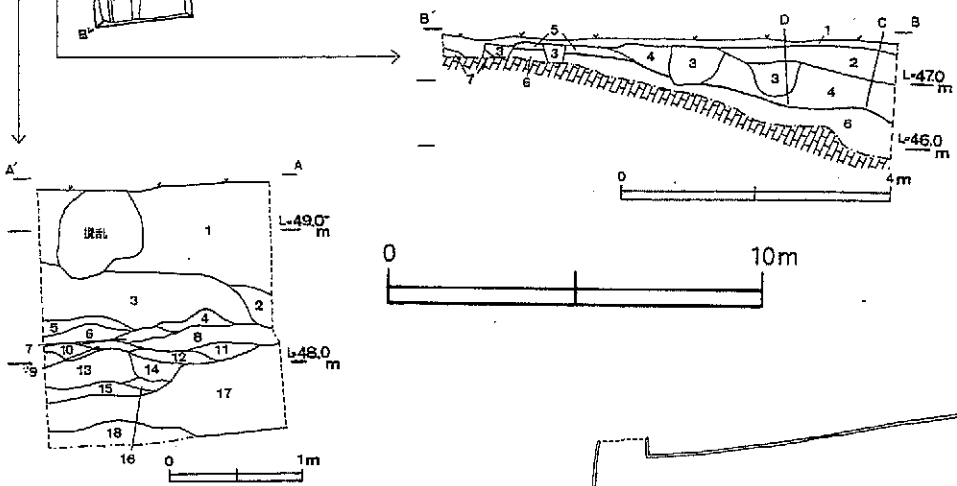
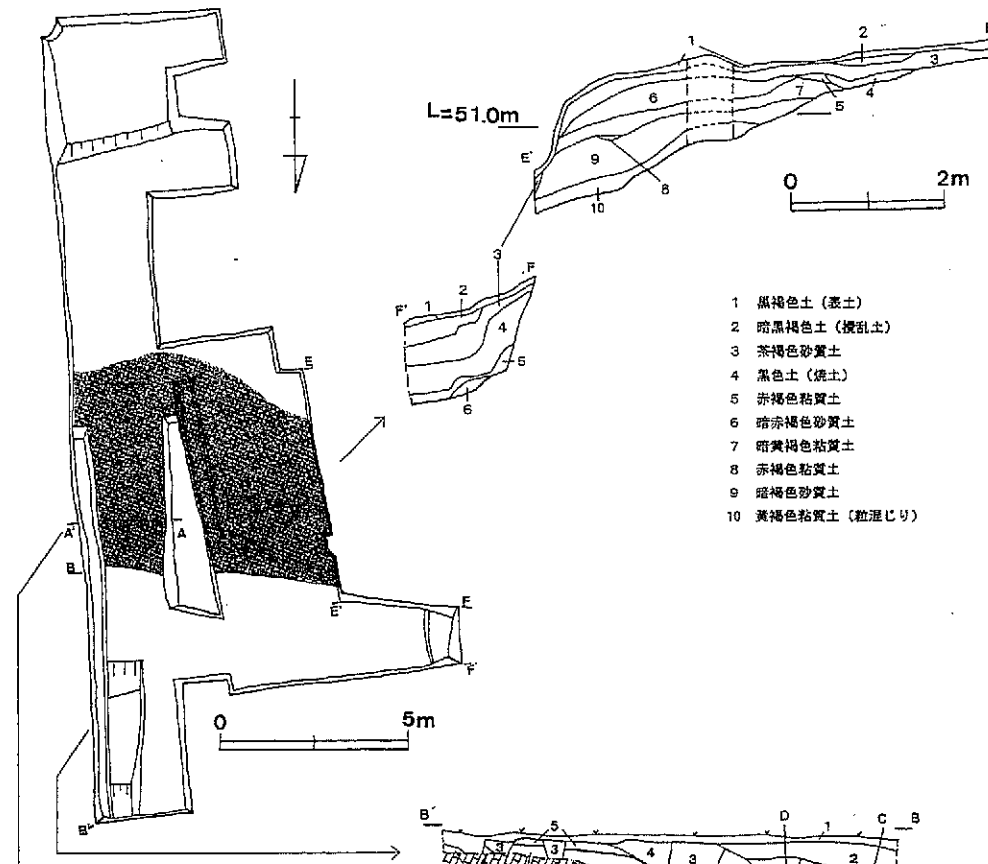
第7埋葬平面図

出土遺物実測図

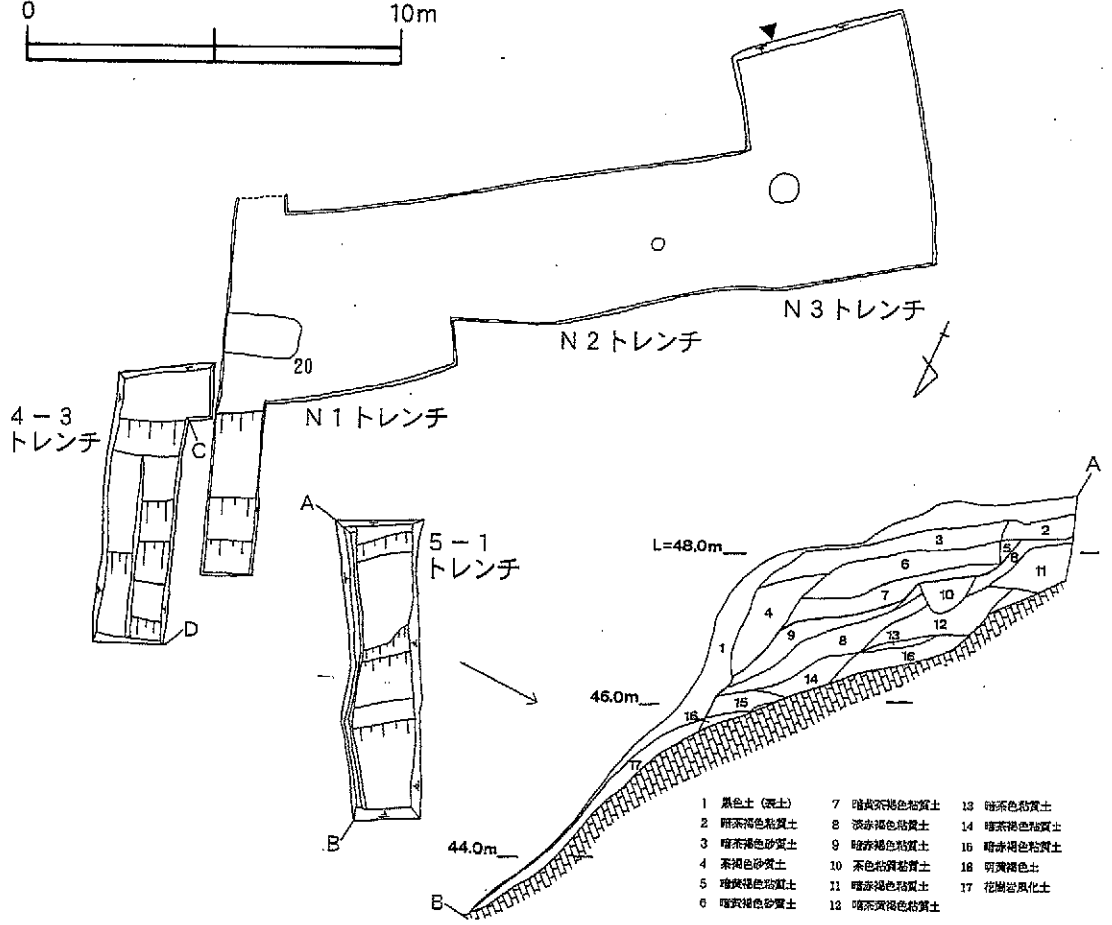


第19埋葬平面図および遺物実測図

第25埋葬平面図および遺物実測図



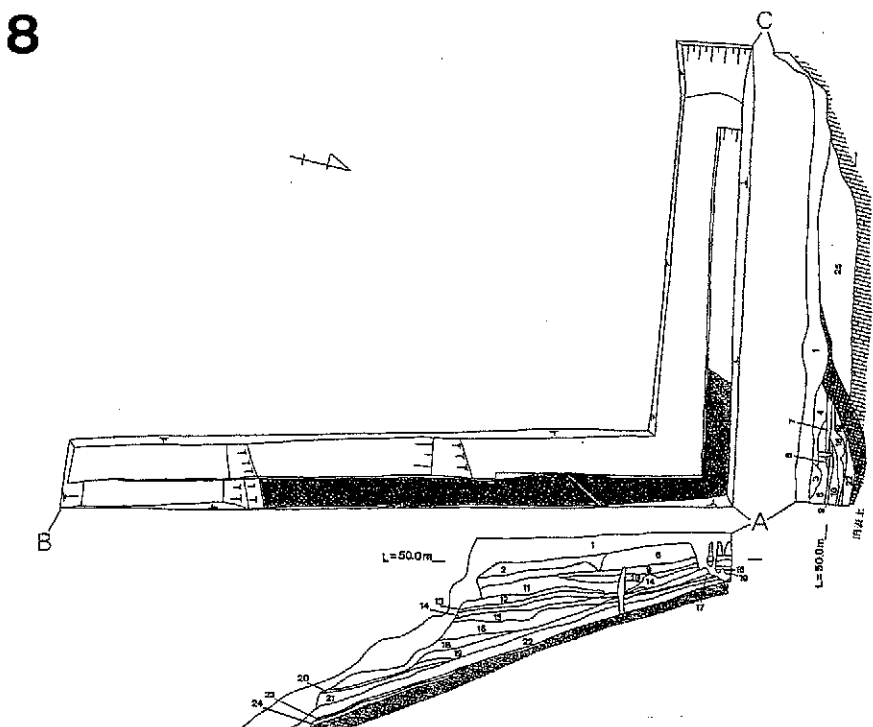
4-2 トレンチ平面・断面図



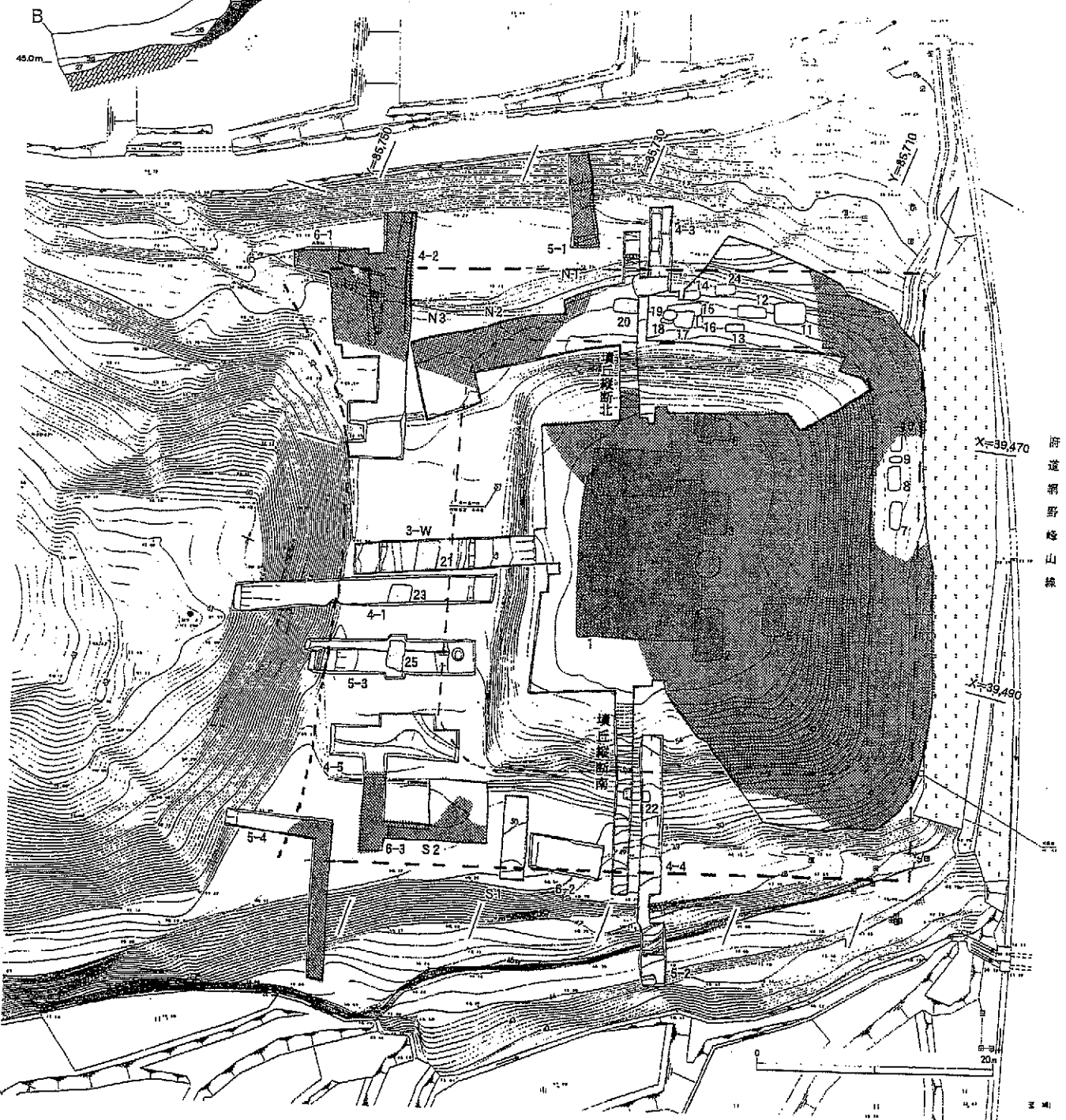
5-1 トレンチ平面・断面図

0 3m

5-4 トレンチ平面・断面図



赤坂今井墳丘墓墳丘復元想像図
(点線部は傾斜変換点・網掛部は盛土)



丹後の弥生墳墓について

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

係長 石井 清司

1、縄文時代から弥生時代への変化

狩猟採集から稲作へ

2、弥生時代の墓が注目される理由

3、丹後における弥生時代の墓

時代	時期区分	遺跡名(丹後地域)	その他の遺跡	備考	主なできごと
縄文時代				狩猟・採集	BC479年 孔子死去
弥生時代	弥生 草創期(早期)			稲作を中心とした文化 鉄の輸入	400年頃
	前期(1期)	京丹後市峰山町七尾遺跡	京丹後市峰山町扇谷遺跡 京丹後市峰山町途中ヶ丘遺跡	方形周溝墓の出現	300年頃
	中期前葉(2期)				BC221年 秦始皇帝が全国を統一 BC202年 劉邦、皇帝となる
	生 中期中葉(3期)	京丹後市峰山町カジヤ墳墓群	大山崎町下植野南遺跡		BC141年 漢の武帝が即位 BC108年 朝鮮半島に楽浪郡を設置
	中期後葉(4期)	京丹後市大宮町帯城墳墓群 京丹後市弥栄町奈具墳墓群 宮津市難波野遺跡 与謝野町寺岡遺跡 与謝野町日百ヶ岡遺跡 与謝野町千原遺跡	京丹後市弥栄町奈具谷遺跡 山陰地域貼石・列石墓 宗祐池1号墓 殿山38号墓	玉作りの専業集団	100年頃
	時 後期前葉(5-1期)	京丹後市丹後町大山墳墓群 京丹後市弥栄町坂野丘遺跡	西隅突出墓 阿弥大寺1号墓		紀元前 紀元後
	後期中葉(5-2期)	京丹後市大宮町左坂墳墓群 与謝野町大風呂南墳墓群		鉄器の副葬例が増える	AD25年 光武帝即位 後漢成立 AD57年 奴国王、光武帝より金印を授かる
	後期後葉(5-3期)	与謝野町西谷墳墓群 京丹後市網野町浅後谷南墳墓	仲仙寺9・10号墓		AD107年 奴国王師升、後漢に朝貢 AD178年 この頃倭國大いに乱れる
	代 終末期(5-4期)		西谷3号墓 京丹後市峰山町赤坂今井墳墓		AD188年 卑弥呼共立 AD220年 魏建国
	古墳時代			南丹市園部町黒田古墳 奈良県桜井市箸墓古墳 山城町椿井大塚山古墳	